

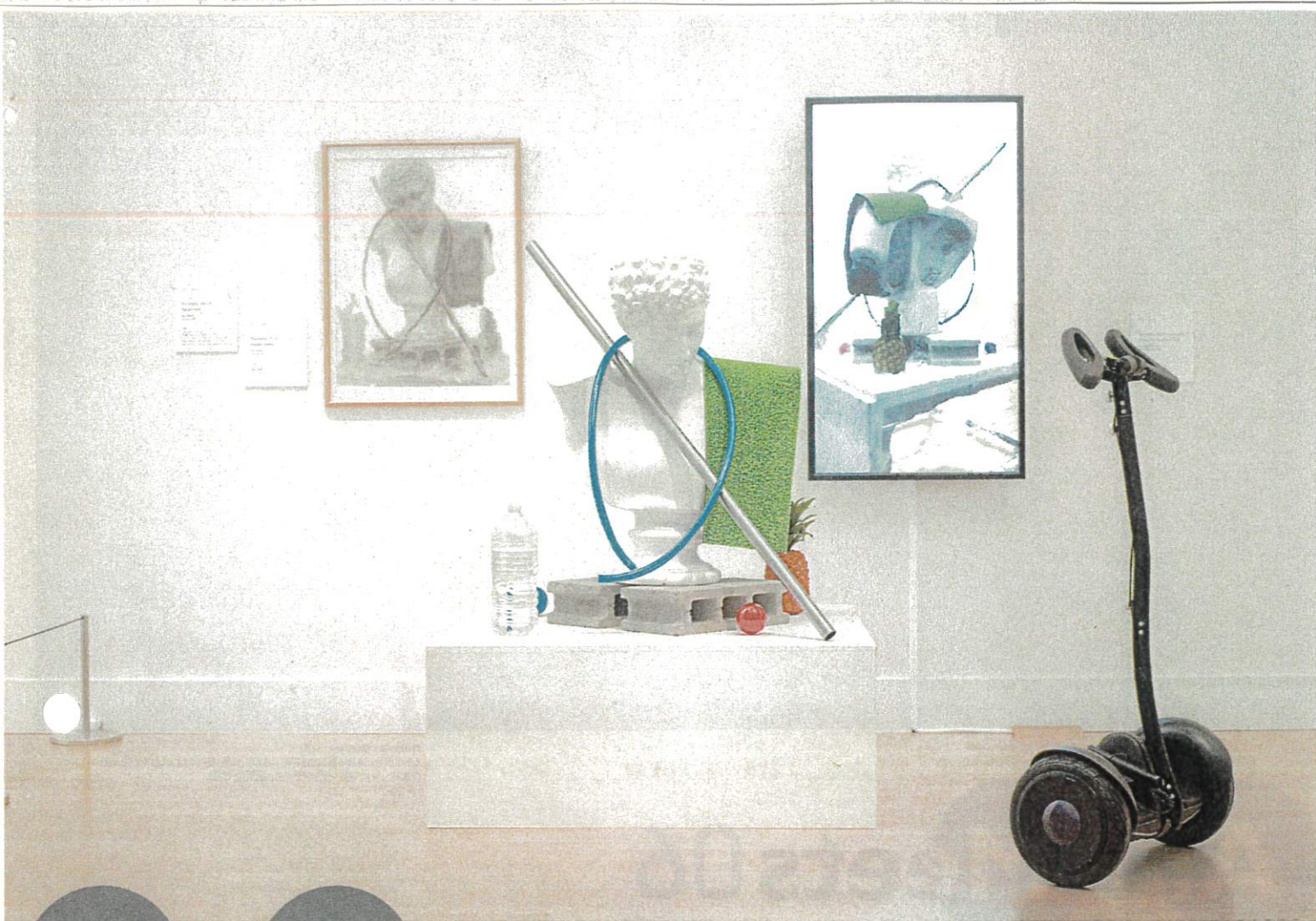
平成31年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【展覧会】

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。						
細事業別目標【展覧会】	各職員の専門性を活かして研究や企画力を充実させていく。広報や展示を通して丁寧な伝え方の工夫を行う。						
展覧会名称	身体と記憶 アーツ前橋所蔵作品から	やなぎみわ 神話機械	収蔵作品展2(誰かに宛てた贈りもの-前橋市収蔵美術品ものがたり-	Art Meets 06 門馬美喜/やんツー	山本高之とアーツ前橋のビヨンド 20XX:未来を考えるための教室	表現の生態系	前橋の美術2020
会期・日数	2019/4/19-2019/7/9 /71	2019/4/19-2019/6/23 /57	2019/7/19-2019/9/16 /58	2019/7/19-2019/9/16 /58	2019/7/19-2019/9/16 /58	2019/10/12-2020/1/13 /69	2020/2/8-2020/3/15 /32
場所	ギャラリー1	地下ギャラリー	ギャラリー1	地下ギャラリー	地下ギャラリー	全ギャラリー	全ギャラリー
学芸担当者	今井	辻	若山	住友、吉田	今井、沼下	今井	若山
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等		・美術館連絡協議会巡回展				・芸術文化振興基金助成金	・前橋の美術実行委員会
最終修正日	2019/3/20	2019/3/20	2019/6/11	2019/6/7	2019/6/7	2019/6/7	2019/3/20
【目的】 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	<p>アーツ前橋の所蔵品を中心に、地域ゆかりの作家や作品を紹介する。開館以来、継続している作品の収蔵によりコレクションがより魅力的なものになっていることを知ってもらおう。</p> <p>ターゲット: 近隣住民、市外の実業愛好者</p> <p>1. コレクションへの理解が深まる 2. 前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会 3. 気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着</p>	<p>これまでの地域ゆかり作家という枠から離れ、国内外の第一線で活躍するアーティストの個展を開催する。美術と舞台(演劇)を行き来しながら、スペクタクル性とドキュメンタリー性が交差するような作品を発表する、やなぎみわを紹介することで、現代美術作家の創造性に触れる機会をつくる。</p> <p>ターゲット: 関東近県、美術や演劇の愛好者</p> <p>1. 日本を代表する現代美術作家の汲み尽くせぬ創造性に触れる機会を創出 2. アーティストと他分野の専門家との協働および交流により、新たな顧客の獲得</p>	<p>新収蔵作品を中心にアーツ前橋開館以降の期間、現在進行形で前橋と係わり、創造的な活動をしている作家たちを身近に感じられる機会を作る。</p> <p>ターゲット: 近隣住民、市外の実業愛好者</p> <p>1. コレクションへの理解が深まる 2. 前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会 3. 気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着</p>	<p>水墨画によって南相馬市の伝統行事にも欠かせない馬を描き続け、近年は震災被災地周辺の風景画を制作している門馬美喜と、人工知能を応用したテクノロジーによって生まれる世界と表現を追求しているやんツーの展覧会。</p> <p>ターゲット: 近隣住民、若年層</p> <p>1. 新たな顧客の獲得 2. 中堅作家に新しい作品発表の機会をつくる 3. 自然や技術と人間の関係を考察できる展覧会にする</p>	<p>これまでのラーニング・プログラムでかかわりを持ってきた教育関係の人々と協働してプログラムを行う。また山本高之氏をゲストキュレーターに迎えることで、参加者と美術をつなぐラーニングの意味を問い直し、誰でも学ぶことの出来る展覧会となることを目指す。</p> <p>ターゲット: 近隣住民、美術教育に関心のある方</p> <p>1. 新たな顧客の獲得 2. 既存のラーニング・プログラムを外部に紹介する。 3. 中高生など新たな顧客の獲得と、その継続的な参画を作り出す。</p>	<p>2016年度から「表現の森」を通じて社会課題に対する美術館の役割を考察してきた。このような活動を美術館が行う背景を歴史的、美術的視点から改めて問い直す。精神医療や共同体のようなテーマを扱い、現代におけるアートの役割を再考する。文化人類学や社会学の専門家と協働し、美術以外の分野の人々にも関心を持ってもらえるような企画展を目指す。</p> <p>ターゲット: 美術/歴史愛好者、福祉/医療/教育に関わる方</p> <p>1. 現代社会における美術館の役割を問い直す 2. 異なる専門分野の交流 3. 地域の歴史の再発見 4. アーティストと協働した新作発表の機会を創出</p>	<p>前橋ゆかりのアーティストの活動を通して、地域の芸術文化の現在を知ることができる。また、地域とアーティストの協働活動によって、次世代を担う若者や子どもたちに知己の芸術文化を継承することを目指す。</p> <p>ターゲット: 前橋市民、若年層</p> <p>① 前橋ゆかりのアーティスト、ギャラリーほか、アートにかかわる様々な事業主体がネットワークを形成する ② コミュニティの協働と活性化</p>
【①投入】 成立予算	470千円	11,533千円(R1) 2,132(H31)	320千円	1,788千円	6,468千円	19,888千円	3,300千円
【②内容・活動】 事業の概要	新たに収蔵された作品、近年前橋市が収蔵した美術品を取り上げ、作家や作品をこれまでのアーツの企画展との関わりとともに紹介する。	1990年代から現在まで現代美術および演劇界で注目を浴びてきた、やなぎみわの約10年ぶりの大規模個展。代表作を展示し足跡をたどるほか、新作では群馬、京都、高松、福島の学校と連携し、マシン4機が演劇を演じる作品を発表する。	新たに収蔵された作品、近年前橋市が収蔵した美術品を取り上げ、作家や作品をこれまでのアーツの企画展との関わりとともに紹介する。	門馬氏は過去作とシリーズ作品の新作、やんツーは新作を紹介する。新しい技術と共に長い歴史を持つ絵画を見直すような構成をめざす。	先進的な教育普及活動で常に世界の注目を集めるアート美術館でラーニング・プログラムのリサーチを行ったアーティストの山本高之氏の専門性を活かしながら、新たな学びの場としての美術館を提示する。	・外部有識者による企画検討委員会の実施(計4回程度) ・参加作家数 30作家程度 ・新作制作 10作品程度 ・企画展/表現の森の内容に連動したシンポジウム及び上映プログラムを実施	「前橋の美術2017」の継続と発展を企図して開催される展覧会および市民参加型イベント。アートを通して地域社会のつながりを再認識する。
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	1. 新収蔵作品の公開 2. 作家研究に基づいた展示構成。 3. 鑑賞補助資料の作成(キャプションなど)	1. 全国の美術館と合同で企画することで、各館のノウハウを学ぶ。 2. 担当の分担により、業務の効率化を図る。 3. 先行開催館に合わせることで、早くからの広報活動が行える。 4. 群馬工業高等専門学校との連携により、他分野へアプローチする	1. 新収蔵作品の公開 2. 作家研究に基づいた展示構成。 3. 鑑賞補助資料の作成(キャプション、配布物)	1. それぞれの作家が講師をつとめる参加型ワークショップを計画する。	1. ゲストキュレーターを立てて、より専門性の高い展覧会とする。 2. 親子向け、学生向けのワークショップを計画する。 3. 市内の教育施設等との連携を行う。	1. 外部有識者と企画会議を重ねることで、専門性また社会課題に対する理解を深める。 2. 福祉/医療/教育分野の人たちに関心を持ってもらえるような先進的な企画とする。 3. 市役所内の他課及び市内の関連団体と連携しながら、広報活動を進める。	1. 市民とアーティストが対話する場をつくる 2. 展覧会と同時期に市内ギャラリー各所で連携企画展を開催する 3. アーティストが学校や福祉施設等に共同事業を提案・実施する
【数値目標】 入場・参加者数	6,000人	5,000人	5,000人	4,000人	4,000人	6,000人	5,000人
【人数及び達成率】				人 %	人 %	人 %	人 %
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調査からトピックを転記)							
特記事項							

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。																																																				
細事業別目標 【文化支援／普及事業】	作家の制作支援として、地域性や領域横断性といった特徴を運営体制や調査研究に反映させていきたい。																																																				
事業名称	滞在制作(海外)	滞在制作(群馬県ゆかり)	地域アートプロジェクト(長期プロジェクト)	文化支援プログラム 前橋まちなかアーツ助成	文化支援プログラム (1)身体の芸術 (2)駅家/木馬祭り																																																
時期・日数	(1)2019年6月～8月頃 90日程度 (2)2019年10月～2020年1月頃 45-60日程	(1)2020年2月～3月頃 30日程度	2019年5月頃～2020年3月頃	2019年9月、10月	(1)2019年6月～2020年3月 (2)2019年4月、11月																																																
場所	豎町スタジオほか	豎町スタジオほか	市内各地	中心市街地各所	中心市街地各所																																																
学芸担当者	五十嵐、吉田	五十嵐、吉田	五十嵐	五十嵐	五十嵐、吉田																																																
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	アートによる文化交流推進実行委員会 助成:文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業	アートによる文化交流推進実行委員会 助成:文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業	アートによる文化交流推進実行委員会	アートによる文化交流推進実行委員会 助成	アートによる文化交流推進実行委員会 助成																																																
最終修正日	2019/6/7	2019/6/7	2019/6/7	2019/6/7	2019/6/7																																																
【目的】 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	・多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。 ・海外のアーティストの目を通した地域資源の発掘。 ・前橋で制作された作品を通して海外に前橋を発信。 ・地域の作家や住民との長期的な関係性を構築する。 ターゲット:近隣住民、市内 ①地域資源の発掘 ②海外での発信 ③多文化交流の機会創出	・作家の創作活動支援。 ・市内・県内での活躍の場を広げる。 ・東京などの人口集積地や、自分に地縁のある場所だけにとどまらない発表の場の創出とそのネットワークの形成。 ターゲット:近隣住民、県内 ①館外活動により、幅広い層への活動紹介 ②活動拠点の創出	・作品としての「モノ」ではなく、継続されていく「コト」に視点を置き、活動を行う。 ・アーティストのみならず、様々な人が関わり合い、意見を交わし、世代を超えてつないでいく、長期にわたり市民の創造性に訴えることのできる事業を行う。 ターゲット:地域住民、市内 ①地域資源の発掘と再評価 ②アーティストと市民の知識の共有と交換	・市民が様々な芸術文化に触れる機会の創出。 ・まちなかで活動する芸術文化団体等への支援及び相互の交流機会の創出。 ・まちなかの回遊性の向上によるにぎわいの創出。 ターゲット:近隣在住者、美術以外の芸術表現に興味を持つ市民 ①芸術文化に関わる人材の増加 ②地域で活動を続ける個人・団体への長期的な活動支援	・身体表現等の視覚芸術以外の表現活動の継続した支援 ・市内を中心に文化活動を続ける団体・個人とのネットワーク形成。 ターゲット:芸術になじみのない市民 ①地域の表現者コミュニティとの連携強化 ②地域における活動の場・機会の創出																																																
【①投入】 成立予算	4,174千円	840千円	2,146千円	1,400千円	1,270千円																																																
【②内容・活動】 事業の概要	国内外で活躍する外国人作家を招聘し、滞在制作活動を行なう。	群馬県にゆかりのある作家に対し、地元での制作環境を支援するため、滞在制作を行なう。	地域調査をもとに、市民との意見交換や勉強会を行い、次世代に残す風景を想像して、長期にわたり継続させる事業を行う。	過去5年実施してきた、まちなかで活動している芸術文化団体への助成。めぶくフェス(アート部門)との役割分担を踏まえ、より芸術活動に主軸をおいて継続的(3年以上の実績)に活動する団体・個人を支援する。	まちなかで活動するアーティストやクリエイターなど、芸術文化を担う民間の主体と協働してイベント等を企画する。 (1)身体の芸術 (2)駅家の木馬実行委員会																																																
主な取り組み計画 ・広報戦略 ・新たな試み	・1組は新たに韓国のレジデンススペースMMCA Goyangとの交流プログラムによって作家を交換し、事業を実施する。	・年齢の枠をなくし、多様な年齢・ジャンルの受け入れを行う。	・アーティストや専門家を交えた広く市民参加の可能な勉強会の開催。 ・持続可能/長期わたるプロジェクトの実施に向けた体制作り。	・参加者ミーティングの実施によるプレイヤー相互の理解、相乗効果による発信 ・助成金申請額を最低1万円に設定し、柔軟に対応 ・めぶくフェスとの役割分担と連携	・助成事業とすることでより自立的な事業の開催を目指す。 ・他事業との広報連携を行う。																																																
【数値目標】-【結果】	<table border="1"> <tr> <td>指標1</td> <td>招聘アーティスト数</td> <td>2組</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td>指標2</td> <td>イベント回数</td> <td>2回</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td>指標3</td> <td>参加者数</td> <td>100名</td> <td>結果</td> </tr> </table>	指標1	招聘アーティスト数	2組	結果	指標2	イベント回数	2回	結果	指標3	参加者数	100名	結果	<table border="1"> <tr> <td>招聘アーティスト数</td> <td>1組</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td>イベント回数</td> <td>1回</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>50名</td> <td>結果</td> </tr> </table>	招聘アーティスト数	1組	結果	イベント回数	1回	結果	参加者数	50名	結果	<table border="1"> <tr> <td>参加アーティスト数</td> <td>1組</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td>イベント日数</td> <td>3回</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>200名</td> <td>結果</td> </tr> </table>	参加アーティスト数	1組	結果	イベント日数	3回	結果	参加者数	200名	結果	<table border="1"> <tr> <td>支援対象団体数</td> <td>10組</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td>イベント回数</td> <td>15回</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td>入場者数</td> <td>1000名</td> <td>結果</td> </tr> </table>	支援対象団体数	10組	結果	イベント回数	15回	結果	入場者数	1000名	結果	<table border="1"> <tr> <td>参加団体数</td> <td>2組</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td>(1)総参加者数</td> <td>50名</td> <td>結果</td> </tr> <tr> <td>(2)総参加者数</td> <td>50名</td> <td>結果</td> </tr> </table>	参加団体数	2組	結果	(1)総参加者数	50名	結果	(2)総参加者数	50名	結果
指標1	招聘アーティスト数	2組	結果																																																		
指標2	イベント回数	2回	結果																																																		
指標3	参加者数	100名	結果																																																		
招聘アーティスト数	1組	結果																																																			
イベント回数	1回	結果																																																			
参加者数	50名	結果																																																			
参加アーティスト数	1組	結果																																																			
イベント日数	3回	結果																																																			
参加者数	200名	結果																																																			
支援対象団体数	10組	結果																																																			
イベント回数	15回	結果																																																			
入場者数	1000名	結果																																																			
参加団体数	2組	結果																																																			
(1)総参加者数	50名	結果																																																			
(2)総参加者数	50名	結果																																																			
【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のターゲット、ねらいに対する成果(評価調査からトピックを転記)																																																					
特記事項																																																					

平成31年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【ラーニング等】

館の共通目標	安定した運営体制の確立。継続事業は効率化させ、検証や計画に十分な時間をとることで質を向上させていく。							
細事業別目標 【文化支援/普及事業】	教育や福祉など各分野に対して、芸術を通したラーニングの役割をしっかりと示しながら実施していきたい。							
事業名称	アーティスト・イン・スクール	あつひろば	アーツナビゲーター研修	表現の森継続事業	数値目標記載事業			
時期・日数	アーティスト・イン・スクール 年4回程度	7月、10月、11月、1月、3月	7月～3月 6回	(1)アリスの広場 12回/1年 (2)南橋団地 12回/1年 (3)えいめい 6回/1年 (4)のぞみの家 6回/1年	(1)メンバーシップ会員 個人:90人(83人) ペア:50人(42人) 賛助:2人(1人) 法人:25社(21) 収入:1,000千円(819千円)			
場所	市内小中高等学校	スタジオ・交流スペース	スタジオ・ギャラリー	ギャラリー、館外(アリスの広場、 桃川小学校、南橋団地、えいめい、 のぞみの家など)	(2)先生の無料招待 ウィーク 30人(19人)			
学芸担当者	吉田、若山	沼下	辻	今井	(1)内H30年度実績			
実施方法 ・委員会形式 ・助成 ・巡回展等	・アートによる対話を考える実行 委員会 ・文化庁クラスター形成支援補助 金			・アートによる対話を考える実行 委員会 ・文化庁クラスター形成支援補助 金				
最終修正日	2019/6/7	2019/6/7	2019/6/7	2019/6/7	2019/6/7			
【目的】 ・参加者層のターゲット ・ねらい	学校生活の中で質の高い芸術に 触れ、アーティストとの交流を行 いながら児童・生徒の表現力やコ ミュニケーション能力を育成す る。 ターゲット: (1)小学校～高校の児童・生徒、 教員 ・児童・生徒が現代美術の表現 の多様さを知る ・アーティストと活動を行うことで、 表現力が身につく	1.サポーターやアーティストによる 多様な芸術体験を通して、アーツ 前橋への来館促進を行い、将来 の自主的な鑑賞者を育成する。 2.サポーターが企画・運営のノウ ハウを身につける。 ターゲット:アーツ前橋に来館した ことの無い親子(隣接施設利用者 等) ・初めて来館して造形活動や鑑 賞を体験しながら、アーツ前橋は 自己や他者の表現が認められる 場所であることを理解する ・サポーターが企画や運営へ継 続的に関わる。	美術鑑賞は敷居が高いと思っ ている人たちが作品や作家につ いての知識を得ることが作品鑑賞 だと考える人に、自分の眼で作 品鑑賞する楽しさを知ってもら う。 ターゲット:事業主旨を理解し、 アートやコミュニケーションが好き な人 ・アーツナビゲーターのスキル アップと、研修後も自主的な活動 を行い、展覧会ごとに「おしゃべ りアートデイズ」を実施できるよ うな組織作り	・アート/美術館が社会課題に 対してどのような役割を果たせる のかを考える機会を創出する。 ・アーティストを軸にしたアートプ ロジェクトを運営することのできる 人材を育成する。 ・地域の福祉/教育現場との連 携関係を築く。 ターゲット:美術館から精神的/ 物理的にもアクセスが最も難しい と考えられる人 1. アート/アーティストを通じて福 祉/医療/教育における社会課題 を見つめ、美術館へのアクセスに困 難を抱える人たちへプログラムの参 加を促進する。 2. アウトリーチプログラムを通じて、 美術館へのインリーチへ繋げる。				
【①投入】 成立予算	1,040千円	900千円	448千円	2,838千円				
【②内容・活動】 事業の概要	(1)アーティスト・イン・スクール: アーティストの学校への派遣 (2)教員向け広報物作成、無料 招待ウィーク:児童生徒とのつな ぎ手である教員向けに広報を行 い、アーツ前橋の事業への理解 を促す	サポーター等と協働しながらア ーツ前橋に親しみ、多様な芸術に 触れるワークショッププログラムを 実施	来館者と一緒に対話しながら作 品鑑賞をするファシリテーターの 育成。作品研究の方法や、ガイ ドプランの作成や、実践でのコー チングを行いながら、情報提供 型のファシリテーションを学ぶ。	(1)アリスの広場×滝沢達史 (2)南橋団地×中島佑太 (3)市内高齢者施設×石坂玄士 /山賀さくら (4)のぞみの家×廣瀬智央/後 藤朋美 が、定期的なワークショップやリ サーチプログラムを行う。 H30年度事業の反省や課題を考 えながら、関係各所との連携関 係を深める。また、プロジェクトを 広く周知するための記録媒体の 拡充を図る。				
主な取り組み ・広報戦略 ・新たな試み	実施予定校を前年度に調整し、 決定する	キッズフェスタ等まちなかの大規 模イベントと連携し、広報活動を 効果的にを行う	展覧会会期中に「おしゃべりア ートデイズ」を実施し、来場者とも に作品鑑賞ツアーを行う。 公民館などに参加者を呼びかけ る。					
【数値目標】-【結果】	実施校数 4校	結果 4校	実施回数 大規模:3回 小規模:2回	結果	自主研修回数 15回	結果	ワークショップ実施回数 36回	結果
指標1	参加者数 学校規模による	参加者数 450人	参加者数 450人	参加者数 200人	参加者数 200人	参加者数 400人	参加者数 400人	
指標2					受講継続数 10人			
【事後記入】 【③結果、④成果】 ・目的、観覧者層のター ゲット、ねらいに対する 成果(評価調書からト ピックを転記)								
特記事項								



やんツー | yang02
《現代の鑑賞者》2018年 インスタレーション サイズ可変
作家蔵 撮影:萩原 崇太郎

Art Meets 06

アーツ前橋は中堅アーティストの作品を通して新しい芸術の創造と出会う企画展「Art Meets」を毎年開催しています。第6回目は、生まれ育った地域の歴史と深く関わる馬、さらに東日本大震災後に東京と相馬を行き来する途中で眼にする変わりゆく風景を描き続けている門馬美喜と、ドローイング制作や作品鑑賞といった人間の行為を技術によって代替する作品を制作しているやんツーの二人の作品をご紹介します。

やんツー yang02 | 1984年神奈川県茅ヶ崎市生まれ。2009年多摩美術大学大学院
デザイン専攻情報デザイン研究領域修了。デジタルメディアを扱い、表現の主体性
を問う作品を多く制作する。文化庁メディア芸術祭アート部門において第15回では
《SENSELESS DRAWING BOT》が新人賞、第21回には《Avatars》で優秀賞を受賞。

門馬美喜

MOMMA Miki

やんツー

yang02

July 19-Sep 16, 2019 Venue: Arts Maebashi Open hours: 10:00-18:00 (entry up to 17:30) Closed on Wednesdays. Admission: 500 Yen/University students and Over 65 years old: 300yen Organizer: Arts Maebashi

2019年7月19日(金)～9月16日(月・祝)

開館時間：10時～18時（入場は17時30分まで）

休館日：水曜日

主催：アーツ前橋

観覧料：一般500円／学生・65歳以上・団体（10名以上）300円／高校生以下無料

（「山本高之とアーツ前橋のビヨンド20XX：未来を考えるための教室」展と共通）

※障害者手帳等をお持ちの方と介護者1名は無料

※児童扶養手当証書をお持ちの方は無料

※「わくわく子どもまつり」開催の8月10日（土）は無料

※「国際識字デー」の9月8日（日）は無料

※猛暑割：最高気温35度以上の日にご来場された方は観覧料300円

お問い合わせ：アーツ前橋 TEL:027-230-1144 <http://www.artismaebashi.jp/>

AM ワークショップ「Googleが教えてくれないこと インターネットの裏路地を歩く」

「ググる」以外の検索方法や、一般的な検索エンジンではヒットしないウェブページ（ダークウェブ）など、いわばインターネットの裏路地を皆さんと探訪します。「検索する」行為から浮かび上がる現代社会について考えてみましょう。

講師：やんツー

日時：7月21日（日）14時～16時

会場：アーツ前橋スタジオ

定員：先着15名 対象：13歳～ ※事前にお電話でお申し込み下さい

持ち物：スマートフォンまたはノートパソコン





門馬美喜 | MOMMA Miki
 (千年前の川を渡る馬) 2017年 バネル、和紙、墨 911×1822×50mm
 作家蔵 ©せんだいメディアテーク 撮影:小岩 勉

Art Meets 06

門馬美喜の作品は、個人のアイデンティティと深く結びついた絵画表現を通し、人間と自然の関わりに私たちの眼を向けさせます。いっぽう、やんツーの作品は、新しい情報技術を駆使し主観性や芸術創造をめぐる人間の知性のあり方を問いかけるものです。人間にとって絵画や情報技術は自分を取り巻く環境について理解するために生み出したものでもあります。この展覧会は、現代を生きるふたりのアーティストが歴史、自然、情報技術による個人への影響を感じ取り、表現した作品に触れる貴重な機会になるはずです。

門馬美喜 MOMMA Miki | 1981年福島県相馬市生まれ。2005年東京造形大学造形学部絵画専攻領域概念コース卒業。2006年東中国美術学院および中央美術学院留学に留学。『被災地からの発信 ふくしま3.11を描く』(福島県立美術館、2016年)、『コンニチハ技術トシノ美術』展(せんだいメディアテーク、2017年)、IVOCA展2018 現代美術の展望—新しい平面の作家たち』などに出演。

門馬美喜 | やんツー
 MOMMA Miki | yang02

July 19-Sep 16, 2019 Venue: Arts Maebashi Open hours: 10:00-18:00 (entry up to 17:30) Closed on Wednesdays. Admission: 500 Yen/University students and Over 65 years old: 300yen Organizer: Arts Maebashi

🎨 ワークショップ「建築廃材で小さな理想のまちを作ろう 一木製ブックスタンド製作」

ブックスタンドの側面部分に、建築の廃材となった木材を自由に使って思い思いの小さなまちの風景を作ります。

講師：門馬美喜

日時：8月3日(土) 14時~16時

会場：アーツ前橋スタジオ

定員：先着15名 対象：小学生以上(10歳未満は保護者1名同伴) ※事前にお電話でお申し込みください

持ち物：20×20cmのブックスタンドをお持ち帰りいただく箱または紙袋

🎨 学芸員によるギャラリートーク

日時 8月4日(日)、8月24日(土) 14時30分~15時 ※当日会場にお越し下さい。

📅 同時開催

「山本高之とアーツ前橋のビヨンド20XX：未来を考えるための教室」

会期：2019年7月19日(金)~9月16日(月・祝)

開館時間：10時~18時(入場は17時30分まで)

会場：アーツ前橋



※Pマークの駐車場のご利用に際しては、駐車券に割引処理いたします。

【公共機関】 JR前橋駅から徒歩約10分 / 上毛電鉄 中央前橋駅から徒歩約5分
 【自動車】 関越自動車道 前橋ICから車で約15分
 By Train: About 10 min. on foot from JR Maebashi station.
 By Car: About 15 min. by car from the Maebashi Interchange on the Kan-etsu Expressway.

水と緑と詩のまち前橋文学館 展覧会案内

榎本了亮「線セッション」展 一私が出会った表現者たちII

会期：2019年6月29日(土)~9月29日(日)

「羽の生えた想像力 一阿部智里」展

会期：2019年7月20日(土)~10月20日(日)

お問い合わせ：027-235-8011

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町5-1-16 tel: 027-230-1144 fax: 027-232-2016
 URL: <http://artsmaebashi.jp/> 5-1-16, Chiyodamachi Maebashi Gunma 371-0022
 e-mail: artsmaebashi@city.maebashi-gunma.jp

ARTS MAEBASHI

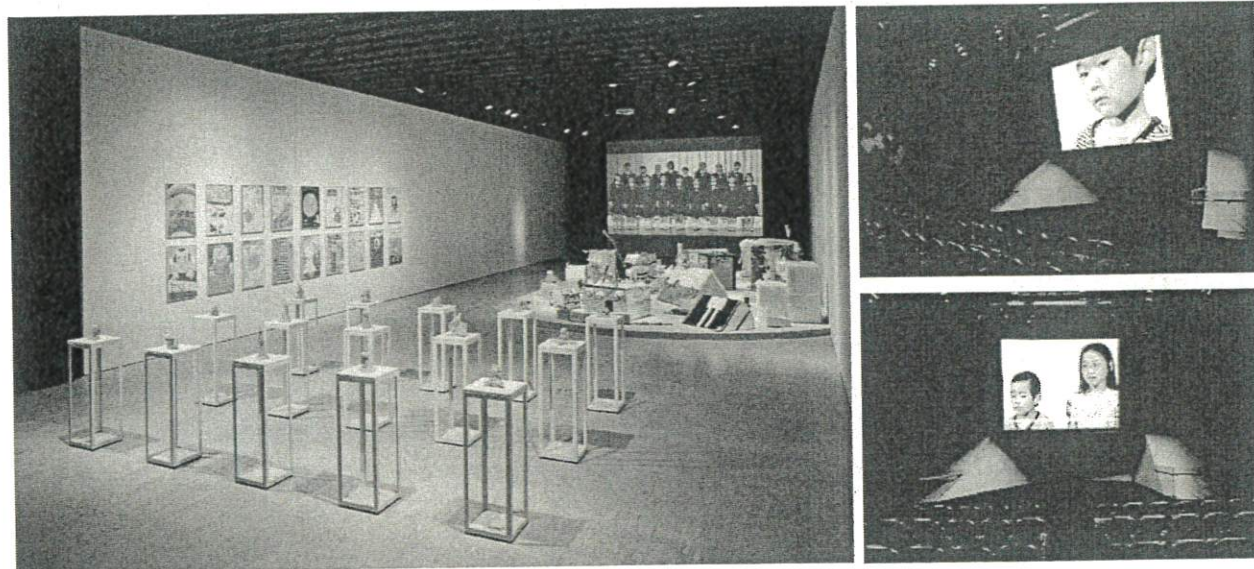
アーツ前橋で開催する夏の企画展

「山本高之とアーツ前橋のビヨンド20XX：未来を考えるための教室」

やまもと たかゆき

山本高之とつくるSF映画 参加者募集

アーツ前橋の夏の展覧会で展示する、SF映画のシーンを一緒につくる子どもたちを募集します！



アーツ前橋は夏の企画展でアーティストの山本高之を招へいし、アーツ前橋のこれまでの活動を「ラーニング（相互的な学び）」の視点で振り返り、来場者のみなさんと一緒に美術（アーツ/表現）を通じた学びの未来を考える展覧会を準備しています。

山本高之は、この展覧会の開催に向けた準備期間に前橋に滞在し、市民の方たちとともに事前ワークショップを通じて、教育制度を考える近未来SF映画を撮影します。映画の各シーンはワークショップ参加者の方たちによってつくられた造形物と、ワークショップの様子を記録した映像によって構成されます。撮影にご協力いただける子どもたちから大人のみなさまのご参加をお待ちしております。

展覧会開催概要

展覧会名：山本高之とアーツ前橋のビヨンド20XX：未来を考えるための教室

会期：2019年7月19日(金)～9月16日(月・祝)

開館時間：10時～18時(展示室の入場は17時30分まで)

協力：学校法人清心学園 清心幼稚園、群馬大学教育学部 美術教育講座、前橋シネマハウス



① 工場のようなベルトコンベアーの上で、みんなでたくさんのアート作品をつくろう

日時：2019年6月16日(日) 11:00~12:00/14:00~15:00/15:00~16:00

場所：アーツ前橋 スタジオ

定員：一回に付き先着10名

対象：小学生

持ち物：自分が一番大切にしているものをひとつ持ってきてください。

対象：小学生

ベルトコンベアーの上でアート作品をたくさんつくります。つくった作品は後日値段をつけて販売しましょう。販売は、展示会の会期中にアーツ前橋内のミュージアムショップ・ミーナで行います。作品の販売方法と値段は、このワークショップとは別の日に、アート作品を販売する仕事をする人（ギャラリスト）に話を聞いた子どもたちと一緒に考えます。この日に参加者が持ってきた「一番大切にしているもの」は、会期中に美術館で展示をします。たくさんつくった作品と大切にしているものにはどんな違いがあるのでしょうか？一緒に考えてみましょう。

※作品の売り上げは、母子家庭の子どもたちを支援する団体へ全額寄付します。

② 市議会議員の肖像画を描いてみよう

日時：2019年6月23日(日) 10:00~15:00 ※お昼休憩をとります。各自お弁当を持参してください。

場所：アーツ前橋 スタジオ

定員：先着20名

対象：0歳~小学生

僕たち・私たちの今の暮らしの大切なことを決めているのはどんな人でしょうか？前橋市の市議会議員の顔をよく見てポートレートを描きます。完成後に子どもたち一人ひとりが描いた市議会議員の絵をかかげて名前を読み上げ、その様子を撮影します。

お申し込み方法

アーツ前橋に直接お電話またはメールにてお申し込みください。

Tel : 027-230-1144 E-mail : artsmaebashi@city.gunma.jp

URL : <http://artsmaebashi.jp/>

本ワークショップでは、制作した作品とともに、ワークショップ参加者をビデオおよび写真に撮影します。作品およびビデオは、アーツ前橋で開催する展示会「山本高之とアーツ前橋のビヨンド 20XX：未来を考えるための教室」にて展示します。今回制作されたビデオおよびの著作権は、すべて山本高之に帰属し、今後展示会等で発表される場合があります。また、撮影された一部の写真、ビデオは、アーツ前橋の広報普及活動で使用いたしますので、何卒ご協力をお願い申し上げます。

山本高之 プロフィール

1974年愛知県生まれ。愛知教育大学大学院修了後渡英。ロンドン大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン修了。小学校教諭としての経験から「教育」を中心テーマのひとつとし、子どものワークショップをベースに会話や遊びに潜む創造的な感性を通じて、普段は意識されることのない制度や慣習などの特殊性や、個人と社会の関係性を描く。近年は地域コミュニティと協働して実施するプロジェクトに多く取り組んでいる。2017年度に文化庁新進芸術家海外研修にてロンドン滞在。主な展示会に「ゴー・ビトゥーインズ展：こどもを通して見る世界」（森美術館ほか2014-2015）、コチ＝ムジリス・ビエンナーレ（インド 2016）。近年の個展に「山本高之 Children of men」（アトラボあいち 2016）、近著に『芸術と労働』（共著、白川昌生＋杉田敦編、水声社 2018）がある。



「表現の生態系」

展覧会の趣旨

はたして私たちは現代の教育、医療、性愛、経済、環境等の分断を乗り越え、歴史や地域を超えて他の生き物たちと共存する世界を作ることができるのでしょうか。

アーツ前橋は芸術を通じて社会で生きづらさを感じている人たちと協働する「表現の森」プロジェクトを2015年から継続してきました。かつて宗教や共同体の慣習は、現実の困難や対立を調和的に包摂する手段でしたが、それは人間と自然、私と私以外、精神と身体を区別してきた近代科学の登場によって失われました。この展覧会では、宗教や科学だけではなく、自分以外の生き物たちを想像し地球上で共存するための可能性を、現代の芸術が信念と経験を通してもたらす方法を通じて探りたいと考えています。

本展では、文化人類学を専門とする石倉敏明（秋田公立美術大学准教授）、セクシャルマイノリティの問題を専門とする山田創平（京都精華大学准教授）、地域を拠点にしたアート活動を進める白川昌生（アーティスト）で構成される企画委員会による話し合いを重ねながら、テーマの設定から展覧会の構成を考えていきます。また、地域や歴史のリサーチを元にしたアーティストによる新作の制作も多数予定します。

本企画展に関わるキーワード

共異体／ケア／時層／周縁性／マイノリティ／アジール／宗教／福祉／精神医療／風土／赤城山／マイナー／信仰／自然

□会 期：2019年10月12日（土）—2020年1月13日（月・祝） 69日間

□開館時間：10時～18時

□休 館 日：毎週水曜日

□会 場：アーツ前橋 ギャラリー

□観 覧 料：一般600円／学生・65歳以上・団体（10名以上）400円／高校生以下無料

※10月28日（土）は群馬県民の日のため無料

※障害者手帳等をお持ちの方と介護者1名は無料

□主 催：アーツ前橋

□出品点数：約●点

□主な参加作家

白川昌生／出口王仁三郎／岡本天明／金井南龍／尾花賢一／山田創平＋ブ・ド・ラ・マドレーヌ／Port B（高山明）／糸井潤／中村裕太／長重之／川瀬慈／中島涼介／鴻池朋子／Anna Witt／地主麻衣子／松澤宥／Joseph Beuys／三輪途道／猪谷六合雄／表現の森プロジェクト（仮）

地域アートプロジェクト 滞在制作事業

【進捗状況】

令和元年度は、海外在住アーティスト 2 名、公募により選定した群馬県にゆかりのあるアーティスト 1 組を招聘する。また、二国間交流事業により、1 名の日本人アーティストを海外に派遣する。

(1) 海外在住のアーティストによる滞在制作事業（二国間交流事業：招聘）

令和元年度より、MMCA レジデンシー・コヤン、国立現代美術館・韓国（MMCA Residency Goyang, National Museum of Modern and Contemporary Art Korea）との「国際芸術家交流プログラム／international Artist Exchange Program」として実施する。MMCA レジデンシー・コヤンで推薦されたアーティストの中からアーツ前橋内で選定した。

【キム・ジェミニ / KIM Gemini】

キムは、1975 年生まれ、現在は韓国を拠点に活動。韓国と東アジア諸国でポスト植民地研究に取り組んでいるリサーチベースのアーティスト。今回の滞在では、地域の歴史、小さな物語と地域の「文化の融合した食」についてのリサーチを行い、作品制作を行う予定。

□滞在期間：令和元年 6 月 3 日から 8 月 29 日

□滞在場所：豎町スタジオ

□アーティストプロフィール

1975 年生まれ。韓国を拠点に活動。2009 年チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン（ロンドン芸術大学）、ファインアート修士課程修了。近年の主な個展に、「What do the deer eat?」（2018 年、京畿近代美術館／安山、韓国）、2016 年「Sisters Act Korea」（2016 年、ウリ美術館／仁川、韓国）など。

(2) 日本在住のアーティストによる滞在制作事業（二国間交流事業：派遣）

上記、(1) の二国間交流事業としてアーティストを派遣する。交流事業初年度の本年度は、「アーツ前橋の事業（展覧会、地域アートプロジェクト、ラーニング）に参加する作家」「地域へのアプローチ／対話・参加・協働のプロセスを重要視し、地域や社会などのコミュニティー（大小を問わない）が持つ問題や制度に変革をもたらすことを目的とするプロジェクトを行う作家」の 2 点の基準のもとアーティストを複数名選定。その中から MMCA レジデンシー・コヤンの選定委員がアーティストを選定した。

【増田拓史 / MASUDA Hirofumi】

増田は、1982 年生まれ、現在は宮城県石巻市を拠点に活動。特定のコミュニティや地域の日常生活をリサーチし、人々の記憶にテーマをあてた作品を制作。アーツ前橋では 2013 年

から 2014 年にかけて、地域アートプロジェクト ダイニングプロジェクト「前橋食堂」を開催した。

□滞在制作：令和元年 7 月 1 日から 8 月 30 日(予定)

□滞在場所：MMCA Goyang

□アーティストプロフィール

1982 年茨城県生まれ埼玉県育ち。横浜美術短期大学卒業。2011 年から宮城県石巻市に拠点を置く。主な展覧会に、「リボーン アートフェスティバル 2017」(2017 年、宮城県)、「たべるとつくる」(2016 年、はじまりの美術館、福島)、「生活と表現 2015」(2015 年、ノマドプロダクション、東京) など。アーツ前橋地域アートプロジェクト「ダイニングプロジェクト」にて「前橋食堂」を開催し、出版を行う。

(3) 海外在住のアーティストによる滞在制作事業

平成 26 年度より、海外在住のキュレーター、アーティストに候補作家を推薦していただき、アーツ前橋内で選定している。下記の 5 名の推薦委員によりこれまで推薦されたアーティストの中から選定を行う。

■推薦委員

ポーリン・ヤオ (M+キュレーター／香港)、クウォン・ジン (キュレーター／韓国)、照屋勇賢 (アーティスト／アメリカ在住)、かないみき (アートジャーナリスト／ドイツ在住)、ソービン・ヤップ (キュレーター／マレーシア)

□事前リサーチ：令和元年 8 月から 9 月頃(予定)

□滞在制作：令和元年 10 月から 2020 年 1 月の期間中の 45 日以上 60 日未満 (予定)

□滞在場所：堅町スタジオ

(4) 群馬県ゆかりのアーティストによる滞在制作事業

群馬にゆかりのあるアーティストに対し、地元での制作環境を支援することを目的に、平成 27 年度から「群馬県にゆかりのあるアーティスト」に条件を絞って公募を行っている。令和元年度は、年齢制限制度を撤廃し、1 名または 1 組の募集とし、審査員 3 名による審査を行い、決定する。

■審査概要

応募期間：2019 年 7 月 10 日 (水) まで ※当日消印有効

審査員：白川昌生 (アーティスト) / 木村絵理子 (キュレーター / 横浜美術館・主任学芸員) / 住友文彦 (アーツ前橋 館長)